

英語を楽しく

☆ “Let’s run.” と言ったら・・・

「〇〇しましょう。」という言い方に英語では“Let’s …”がよく知られていますね。
ある幼稚園で、若い女の先生が園児を横一列に7人ならべて、

「いいですか。先生が“Let’s run.”と言ったら、みんな向こうの大きな木のところ
まで走るのよ。」

と言われました。園児がドキドキしながら先生の合図を待っていると、先生の一声。

“Let’s run.”

園児はみんな一斉に走り出しました。先生には園児の姿がだんだん小さく見えてくる。
さて、この文で、“Let’s run.”の間違った使い方に気がつかれたでしょうか。

“Let’s run.”というのはご存知のように“Let us run.”のことで、「私たちは
走りましょう。」ということですね。すると、上の文では園児とともに先生も走らなければ
なりません。

ただ日本語では、自分以外の人の立場に立って話すことがありますね。例えば、兄弟喧嘩
をしている時に、母親が子供に向かって、

「そんなに喧嘩をするのなら、お父さんに叱ってもらいますからね。」

のお父さんの部分は、母親の実のお父さんでなく、自分の主人のことですね。このような
言葉の習慣がありますから、園児の先生は、園児の立場になって“Let’s run.”と言っ
てしまったと思われる。この言葉の使い方は英語圏の人には理解しがたいことです。

次に日本人にとって英語の理解しがたいことを挙げましょう。

Generally speaking, in Edo period you should have obeyed your father
and mother.

の英文を日本語にして

「一般的に言って、君は江戸時代には父と母には従うべきでした。」

と訳すと変ですね。辞書には「you」には、「君・あなた」の訳のほか（一般の人々を表す
「人々は・人々が」という意味もあります。なぜ「you」が「人々」を表すのでしょうか。
それはともかく、

「一般的に言って、江戸時代では、子供は父母の言うことには従わなければなりませんでした。」
と訳するのが正解です。

英語にも日本語にも、不思議なことがいっぱい。

